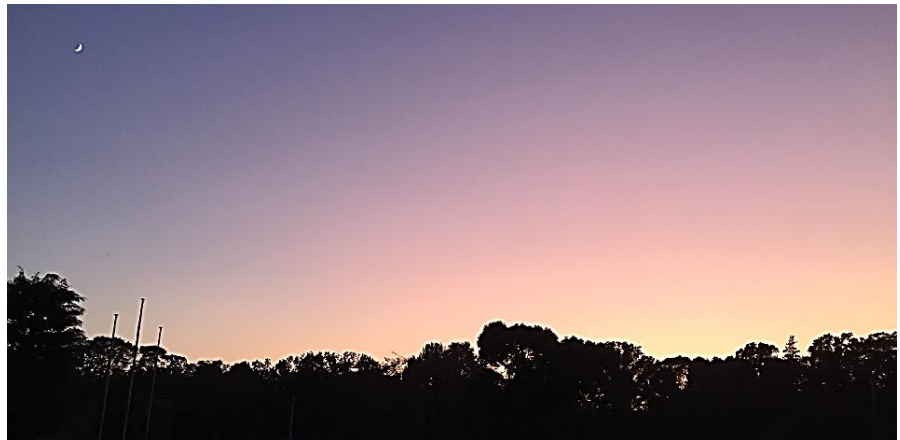


夕焼け小焼けで日が暮れて
山のお寺の鐘がなる
おてつないでみなかえろう
からすといっしょにかえりましょ

子供がかえたあとからは
まるい大きなお月さま
小鳥が夢を見るころは
空にはきらきら金の星

中村雨紅 作詞



ある日の夕暮れの空、きれいな夕焼けと三か月がポツリと見られました。日暮れが早くなり、放課後教室で遊びを終えるころには、辺りは薄暗くなってきました。「夕焼け小焼け」の歌では

ありませんが、どこか寂しさも漂ってきます。そこに気温も下がってくると、よりその寂しさやせわしさを感じてしまいます。あっという間に冬になってしまいました。

大好きなジャングルジム



毎日、誰かが必ず登っているのが、このジャングルジムです。外遊びで、ジャングルジムに誰もいないということはまずありません。大好きなんでしょうね。「何が？」う～ん、それはわかりません。高くて眺めがよく、簡単に登れるから???

ここで鬼ごっこしたり語らったり、ほんとに楽しそうです。

群れて遊ぶ



「子どもの数が減ってきている」というのは、日本全国どの市町村でも共通する話題ですし、大変大きな問題だと

も思います。

相和でも全校児童数が減り、子ども同士の関わり合い



も当然少なくなってきました。幼児の頃の一人遊びから数人の遊びへ、さらに大きなグループでの遊びと、人の発達に即して変わっていきます。この過程が、とても大事なのです。

上の写真は、珍しく大勢でサッカーのゲームをしているところです。「共に過ごす」ことの学びがたくさん含まれています。人は一人では生きていけません。少しずつ少しずつ、他の人との関わりを持ちながら成長していくのです。放課後教室は、その学びの手助けをしていく場でもあるのです。

冬休みのイベント案内

12/25(水) 10:00 超大型紙芝居(拍子木の会)